

2008年1月1日～2020年12月31日の間に 当科において悪性腫瘍の治療を受けられた方へ

—「婦人科がんにおける RNA 編集の役割の解析」へご協力をお願い—

研究機関名 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
病態制御科学専攻病態機構学講座
産科婦人科学分野

研究機関長 増山 寿

研究責任者 岡山大学病院産科婦人科 准教授 中村 圭一郎

研究分担者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
病態制御科学専攻病態機構学講座
産科婦人科学分野

岡山大学病院 産婦人科	教授	増山 寿
岡山大学病院 産婦人科	助教	依田 尚之
岡山大学病院 産婦人科	助教	松岡 敬典
岡山大学病院 産婦人科	医員	岡本 和浩

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

婦人科がんの治療は日進月歩であり、例えば卵巣癌では初回治療（手術、抗がん剤治療など）終了後の維持（再発・増悪を予防するための長期にわたる治療）において新たな薬剤である PARP 阻害薬（薬剤名：リムパ一ザ錠、ゼジューラ錠）が登場し、治療成績が飛躍的によくなりました。また標準治療が終了または終了が見込まれる方においては、がんの性質に基づいた個別化医療である、がん遺伝子パネル検査が保険診療として行える様になりました。しかし、上記の治療には PARP 阻害薬はプラチナ製剤が効いている制限があり、パネル検査に基づく個別化医療では、実際に治療に到達できるのは検査を受けた 10%と、全ての方に画期的な治療が提供できる状況ではありません。

婦人科以外のがんにおいて、近年 RNA 編集と呼ばれる機構が、がんを含むさまざまな疾患に関わっていることが明らかになってきています。婦人科がんにおいては、まだ RNA 編集に関わる研究は進んでおらず、婦人科がんにおいても RNA 編集の役割を解析することが重要と考えています。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

上記解析によって得られた結果が、今後の婦人科がんの医療の発展に貢献できる可能性があると考えています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2008年1月1日～2020年12月31日の間に岡山大学病院産婦人科で悪性腫瘍の治療を受けられた約 200 名を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認後～2025年3月31日

3) 研究方法

2008年1月1日～2020年12月31日の間に当院において婦人科悪性腫瘍の治療を受けられた方において、手術で摘出した検体を用いてRNA編集に関わる因子などの発現を調べます。また診療録（カルテ）の情報も併せて調べます。

4) 使用する情報

この研究に使用する情報として、診療録から以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などの個人を特定できる情報は削除し使用します。

情報：年齢、診断名、進行期、初回治療内容、再発の有無、再発治療内容、生存期間など

5) 外部への情報の提供

この研究に使用する情報は外部へ提供することはありません。

6) 試料・情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院産科婦人科内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などの個人を特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2022年3月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 産科・婦人科学教室

氏名：中村 圭一郎

電話：086-235-7320（平日：8時30分～17時00分）

ファックス：086-225-9570